

アクティブラーニング手法による  
伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業  
成果報告

平成 30（2018）年 3 月

伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会

## ごあいさつ

今やアニメやコミックは日本を代表する文化に発展しましたが、その素材として様々な形で取り上げられているものに、日本の甲冑や武器・武具があります。歴史的な背景はともかく、アニメなどを通じて甲冑に興味を持ち、惹かれていく子どもたちも多いようです。世界的に見ても、日本の甲冑や武器武具は注目されるもので、ジョージ・ルーカスが、映画「スターウォーズ」でダースベーダーの装束の参考にしたものが伊達正宗の黒漆五枚胴具足だったという話は、特に有名です。

このように甲冑が世界的にも高い評価を受けているのは、それが単に「戦の道具」だけではなかったことに理由がありそうです。甲冑は、金工・漆工・染織など技術の粋を集めた優れた美術工芸品です。武士の発生とともに甲冑は機能性を増し、平和な時代が訪れた江戸時代においては、御家の宝や家格を象徴するものとして大切にされ、また受け継がれてきた高度な技術によって新たに制作もされてきました。そこには、日本の伝統技術の多くを見ることができ、いわば日本の伝統技術の縮図ともいえるものなのです。

しかし、一方で、子どもたちには実物を見る機会は減りつつあります。ましてや機能性と防御性を持ち、さらに美しさを兼ね備えた甲冑の構造を体感できる機会はほとんどありません。存在が周知されないということは、担い手の育成にも影響があるということで、伝統文化の継承が図られなくなる事態になりかねません。

そこで、こういった状況と課題を問題提議し、次代を担う子どもたちがより近くで実物を観察し、触れるなどの体験をとおして、自ら学ぶ機会を提供したいと考えました。今回の取組が、我が国のモノづくり文化の継承や子どもたちの意識向上の一助になれば、幸いです。

最後になりましたが、本事業は、その実施にあたり平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業に採択をいただき、そして多くの方々のご支援・ご指導により実現できました。記して感謝申し上げますとともに、心よりお礼申し上げます。

平成30（2019）年3月

伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会委員長  
三重県総合博物館長

大野 照文

## 目次

ごあいさつ	1
アクティブラーニング手法による伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業 事業概要	3
1 実施目的	3
2 実施体制	3
3 実施期間と実施場所	3
4 事業内容	3
5 実施工程	5
事業Ⅰ 日本の甲冑・武器武具の世界～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展	6
1 趣旨	6
2 取組姿勢	6
3 実施概要	6
4 アンケートの結果	6
事業Ⅱ 私の甲冑デザインコンクール	17
1 趣旨	17
2 取組姿勢	17
3 実施概要	17
4 子ども甲冑デザインコンクールの入賞者の選定	17
事業Ⅲ 子どもたちによる甲冑の作り方調査及び甲冑づくり講座	26
1 趣旨	26
2 取組姿勢	26
3 実施概要	26
4 アンケートの結果	26
事業Ⅳ 「甲冑を知ろう！」講座	35
1 趣旨	35
2 取組姿勢	35
3 実施概要	35
4 アンケートの結果	35
事業Ⅴ 甲冑に親しむ着付体験	38
1 趣旨	38
2 取組姿勢	38
3 実施概要	38
4 アンケートの結果	38
今後の展開に向けて	41

### 【凡例】

1. 本報告書は、平成 29 年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の採択を受けて実施した「アクティブラーニング手法による伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業」の成果をとりまとめたものです。
2. 本報告書の編集・執筆は、事業主催者である三重県総合博物館が行いました。
3. 本書に掲載した写真は、参加者の撮影・掲載許のもと、三重県総合博物館が撮影したものです。

# アクティブラーニング手法による 伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業 事業概要

## 1 実施目的

近年、学校教育の現場では、アクティブラーニング（課題探究型）の手法によって主体的な学びが生み出されつつあります。

本事業では、この手法を応用し、子ども達に

- 1) 日本のモノづくり文化についての理解
- 2) 日本のモノづくり文化を仕事とするキャリアパスの自覚

を促す、課題探究型学習プログラムの作成と実践を目指します。

世界的に高い評価をうけている日本の固有文化を支えてきたのは、すぐれたモノづくり技術の伝統です。特に、日本の甲冑は、武将たちの文化・美意識の象徴であり、実戦に即した日本のモノづくりのすばらしい技術を有した武器です。これを題材に、さまざまな甲冑を広く展示・公開し、実物に親しむ機会を提供するとともに、その技術構造に関するワークショップや講座等を開催します。

これらを通して、日本の伝統文化や技術についての子どもたちの興味・関心を高め、主体的な日本文化の担い手として世界に発信できる人材の育成に寄与していくとともに、後継者不足の伝統文化の技術者の育成にもつながっていくことを目的とします。

## 2 実施体制

伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会

### ①役員

委員長	大野 照文	三重県総合博物館館長
副委員長	小田 満博	社団法人日本甲冑武具研究保存会近畿支部長
委員	岡田 芳幸	皇學館大学教授
委員	加藤 久	特定非営利活動法人三重ドリームクラブ代表
委員	山田 康彦	三重大学教授
委員	黒田 雅夫	津市立北立誠小学校校長
委員	磯竹 正道	三重のまんなか・まちかど博物館 小さな昭和と武士博物館館長
委員 (監事)	中尾 正己	三重県総合博物館 ミュージアムパートナー代表

### ②事務局

事務局長	寺本 久彦	三重県総合博物館 副館長
事務局員	宇河 雅之	三重県総合博物館 展示・交流事業課 課長代理
事務局員	小川知佐子	三重県総合博物館 経営戦略広報課 課長
事務局員	瀧川 和也	三重県総合博物館 展示・交流事業課 課長
事務局員	天野 秀昭	三重県総合博物館 調査・資料情報課長
事務局員	岸田 早苗	斎宮歴史博物館 学芸普及課 課長代理
事務局員	田村 香里	三重県総合博物館 展示・交流事業課 主任

## 3 実施期間と実施場所

### ○実施期間

平成 29 年 4 月 3 日（月）～平成 30 年 3 月 31 日（土）

### ○実施場所

三重県総合博物館  
津市一身田上津部田 3060 番地

## 4 事業内容

我が国の優れたモノづくり技術の粋を集めた甲冑を題材とし、甲冑展の開催、甲冑デザインコンクール、甲冑のつくりかた調査及び甲冑づくり講座、甲冑を知る講座、甲冑に親しむ着付け体験など、さまざまな観点からの事業を開催しました。

### 【事業 I】日本の甲冑・武器武具の世界～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展(展示)

一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 近畿支部・東海支部の協力のもと、子どもたちにもわかりやすい内容でさまざまな武器武具を含む甲冑の展示を行い、理解を深めました。

会期：平成 30 年 2 月 8 日（土）～3 月 18 日（日）  
38 日間

展示資料点数：約 250 点

所蔵者：一般社団法人日本甲冑武具研究保存会  
近畿支部・東海支部会員 15 名

入場者数：11,625 人（1 日平均：306 人）

**【事業Ⅱ】私の甲冑デザインコンクール（コンクール）**

展示を見た子どもたちに自分だけのオリジナル甲冑・兜をデザインしてもらい、造形部門・色彩部門・独創性部門等で優れた作品を選考しました。

日程：平成30年2月8日（土）～3月18日（日）

会場：三重県総合博物館 企画展示室

シートの配付数：2,041枚

エントリー数：甲冑 723点 兜 384点

入賞作品選考：平成30年3月21日（水・祝）

選考委員：伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会役員

**【事業Ⅲ】子どもたちによる甲冑の作り方調査及び甲冑づくり講座（調査・講座）**

甲冑を構成する日本の技術について知ること、日本の伝統技術への興味・関心を高める機会とし、理解を深める機会としました。

日時：平成30年2月18日（日）

10時40分～16時

会場：三重県総合博物館 レクチャールーム

参加者数：24人（事前申込み）

講師：礒竹正道さん（三重のまんなか・まちかど博物館 小さな昭和と武士博物館館長）

**【事業Ⅳ】甲冑を知ろう！講座（講座）**

甲冑について専門的に学べる講座を開催しました。写真や図をふんだんに紹介することで子どもたちにもわかりやすい内容としました。  
テーマ：日本の甲冑 ～歴史と変遷～

講師：稲田和彦さん（京都国立博物館名誉館員）

日時：平成30年2月3日（土）

13時30分～15時

会場：三重県総合博物館 レクチャールーム

聴講者数：45人

**【事業Ⅴ】甲冑に親しむ着付体験（体験講座）**

子ども達だけでなく、家族で甲冑の着付けを体験していただく講座を開催しました。

日時：平成30年2月12日（月・振）

3月10日（土）いずれも13時～16時

会場：三重県総合博物館 交流活動室

参加者：2月12日 145人

3月10日 116人

協力：特定非営利活動法人 三重ドリームクラブ（高虎手作り甲冑教室）

**【その他】伝えて広めるための取組**

事業内容を広く発信するため、広報用ポスター、チラシの印刷・配布を行いました。

・日本の甲冑・武器武具の世界～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展

開催案内ポスター 3,000部

チラシ 35,000部

配布先：県内外博物館・図書館・県内各市町教育委員会・県内全小・中・高等学校・大学・県内協力企業 他

児童・生徒向けチラシ 110,000部

配布先：三重県内小学5・6年生、

中学1・2年生全員

#### 4 実施工程

実施時期	内容
4月23日(日)	展示・事業検討会議
6月29日(木)	展示・事業検討会議
6月29日(木)	イベント事業打合せ
7月2日(日)	展示・事業検討会議
7月2日(日)	イベント事業打合せ
8月25日(金)	展示資料写真撮影①
8月27日(日)	展示資料写真撮影②
11月28日(火)	第1回 実行委員会の開催
11月28日(火)	甲冑づくり体験打合せ
12月14日(木)	展覧会ポスター・チラシのデザイン委託
12月14日(木)	募集案内チラシのデザイン委託
12月27日(水)	講座講師との打合せ
1月8日(月・祝)	展示検討会議
1月8日(月・祝)	甲冑づくり体験・試着体験打合せ
1月12日(金)	募集案内チラシの印刷
1月16日(火)	展示解説書の印刷
1月16日(火)	資料梱包・輸送・展示・撤収・開梱作業委託
1月16日(火)	展示ディスプレイ制作委託
1月16日(火)	展示案内ポスター・チラシ印刷発送委託
1月17日(水)	甲冑つくりにかた調査甲冑づくり参加者募集(報道への広報)
2月3日(土)～3月18日(日)	日本の甲冑・武器武具の世界 ～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展の開催
2月3日(土)～3月18日(日)	私の甲冑デザインコンクール作品募集
2月3日(土)	日本の甲冑・武器武具の世界 ～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展 報道向け内 覧会の開催
2月3日(土)	甲冑を知ろう！講座の開催
2月11日(日)	甲冑に親しむ着付体験会場準備
2月12日(月・祝)	甲冑に親しむ着付体験の開催
2月18日(日)	子どもたちによる甲冑の作り方調査及び甲冑づくり講座
3月9日(金)	甲冑に親しむ着付体験会場準備
3月10日(土)	甲冑に親しむ着付体験の開催
3月19日(月)～3月24日(土)	日本の甲冑・武器武具の世界 ～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展の展示撤収
3月21日(水・祝)	第2回 実行委員会の開催
3月21日(水・祝)	デザイン画選考
3月22日(木)～3月23日(金)	入賞者電話連絡・入賞作品の掲示準備
3月24日(土)～4月8日(日)	入賞作品の掲示(三重県総合博物館 学習交流スペース)

# 事業Ⅰ 日本の甲冑・武器武具の世界 ～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展

## 1. 趣 旨

日本の甲冑（鎧兜）は、戦いの装束であるばかりではなく、金工・漆工・染織などの技術を集成し、作り上げられた優れた美術工芸品でもあります。特に、戦乱が落ち着いた江戸時代には、一部の上級武士が象徴的に珍重し、様々な素材と高度に発達した分野の技術の粋を駆使して製作されました。そこには、日本の伝統技術の大半を見ることができ、いわば日本の伝統技術の縮図ともいえるものです。その斬新なデザインは JAPAN COOL として、世界各国からの注目も集めています。

この展覧会では、武将たちの文化美意識の象徴であり、実践に即した日本のモノづくりの素晴らしい伝統の証でもある武具甲冑類をその技術とともに紹介することで、未来を担う子どもたちが日本の伝統文化や技術についての興味・関心を高め、子どもたち自身が世界に向けて発信できる力を持った人材の育成や後継者不足の伝統文化の技術者の育成につなげていく取組としています。

## 2 取組姿勢

一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 近畿支部・東海支部の協力のもと、子どもたちにもわかりやすい内容でさまざまな武器武具を含む甲冑の展示を行い、理解が深まるよう努めました。

展示室では、本物の甲冑に触れたり、その重さを体験できたりするコーナーや、甲冑をよく見てオリジナルのデザイン画を描けるコーナー、甲冑装束顔出しパネルなども設けるとともに、記念講演会や、甲冑をテーマにした体験イベント等を行うことで、わかりやすさや親しみぶかさを高める取組としました。また、特定非営利活動法人 三重ドリームクラブ（高虎手作り甲冑教室）有志のご好意で、可能な限り展示解説を行っていただきました。

## 3 実施概要

会 期：平成30年2月3日（土）～3月18日（日）  
38日間  
休館日：2月5日（月）・13日（火）・19日（月）・  
26日（月）、3月5日（月）・12日（月）  
開催時間：9時から17時まで（土日祝は19時

まで）

会 場：三重県総合博物館 3 階 企画展示室  
（津市一身田上津部田 3060）

観覧料：無料

主 催：伝統的なモノづくり文化の次世代への  
継承事業実行委員会

共 催：一般社団法人 日本甲冑武具研究保存会  
近畿支部・東海支部、三重県総合博物館

協 力：特定非営利活動法人 三重ドリームク  
ラブ（高虎手作り甲冑教室）

後 援：三重県博物館協会

展示資料点数：約 250 点

所蔵者：一般社団法人日本甲冑武具研究保存会  
近畿支部・東海支部会員 15 名

入場者数：11,625 人（1 日平均：306 人）

配布物：ポスター 3,000 部  
チラシ 35,000 部  
児童生徒用チラシ 110,000 部  
パンフレット 10,000 部

## 4 アンケートの結果

### 1) 展示について

A 興味をひく資料、印象に残った展示がありましたか

	(人)	(%)
① いいえ	17	6.7
② はい	235	93.3

B 改善すべき展示内容や展示方法がありましたか

	(人)	(%)
① いいえ	182	75.8
② はい	58	24.2

C 展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	39	17.9
② はい	179	82.1

D ご覧になった展示に満足しましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	8	3.2

② どちらかという「いいえ」	5	2.0
③ どちらかという「はい」	54	21.7
④ はい	182	73.1

E この展示を何でお知りになりましたか。  
(複数回答あり)

	(人)
① ポスター	70
② チラシ	92
③ 新聞	28
④ テレビ	17
⑤ 雑誌	6
⑥ 「県政だより」	13
⑦ 館の公式ホームページ	23
⑧ そのほかのホームページ・ブログ	23
⑨ 館の Twitter や Facebook	9
⑩ そのほかの Twitter や Facebook	10
⑪ 直接、人から聞いて	35
⑫ その他	23

## 2) あなたご自身について

### A 性別

	(人)	(%)
① 男性	143	61.4
② 女性	90	38.6

### B 年齢

	(人)	(%)
4-12 歳	61	26.6
13-19 歳	14	6.1
20-34 歳	19	8.3
35-49 歳	47	20.5
50 歳以上	88	38.4

### C 居住地

	(人)	(%)
津市	82	67.2
松阪・紀勢	18	14.8
北勢	55	45.1
伊賀	4	3.3
伊勢志摩	21	17.2
東紀州	2	1.6
県外	40	32.8

## 3) MieMu の印象について

### A 展示や説明・キャプションはわかりやすか

ったですか

	(人)	(%)
① いいえ	13	6.4
② どちらかという「いいえ」	15	7.4
③ どちらかという「はい」	66	32.5
④ はい	109	53.7

### B 職員の対応はよかったですか。

	(人)	(%)
① いいえ	11	5.5
② どちらかという「いいえ」	4	2.0
③ どちらかという「はい」	66	32.8
④ はい	120	59.7

## 4) ご意見

(1)改善すべき展示内容や展示方法がありましたか。

- ・上級・下級で身分により武器武具は分かれてのできっちり分けてほしかった
- ・解説文や専門用語が多くとてもわかりにくい。用語解説をしてほしい。
- ・なるべくヨロイ、カブトを四方から見れる工夫が欲しい(鏡を置く、写真を添える等)
- ・甲冑の展示でつづらの中とか収のうの仕方が見たかったです。
- ・無料とはいえもう少し説明を書いてほしかった
- ・甲冑のつづらへの入れ方や、内部(収納方法)等も見たかった。
- ・甲冑に迫力がない点があった
- ・TVで動画などの観賞してみたかった
- ・かっちゅう、刀など重さを知りたかった。
- ・字が小さい
- ・わかりやすい説明書きがついていて良かったですが、もっとふりがな付きでも良かったかもしれません
- ・火薬、早合の展示のところで四斤砲弾の説明は必要かなと
- ・素人には用語や説明がむずかしいすぎる
- ・刀はサヤから出して展示してほしいです
- ・甲冑の材料や加工手順の写真や絵があればもっとわかりやすかった
- ・裏側の写真を隣に置いといてくれたらなあと思いました。
- ・もっと誰の鎧なのか知りたい
- ・ここが所蔵、所有しているのか、表示してほしい。
- ・もう少し武具の歴史を通観できる内容であれば有難かったです

- ・展示内が騒がしく、ゆっくり見学できませんでした。
- ・もっと甲冑や武器に触られるコーナーがほしい
- ・18 鉄朱塗畳具足の前立てが前後
- ・甲冑についての基本知識の説明(部位の名称など)がなく、個々のキャプションが同じで見どころがわからない。※甲冑ファンにはていねいな解説なのだろうが初心者には全く不明！！
- ・時代背景がわかると助かる
- ・解説板の位置を少し高くしていただきたい
- ・もう少し専門用語？の説明がほしいです…
- ・ヒトガタみたいなイラストあり ←こんな形状の馬印みたいな物がなにかわかりづらかった・実際に着用したマネキン等あれば良かった 刀の差し方、身長などが分かる
- ・うしろが見たいので鏡をおいて欲しい
- ・触れる鎧があるのは面白い
- ・紙資料でもいいので、何につかう道具なのかの説明があるとよい
- ・鎧や太刀の歴史的变化も示してほしいかった
- ・説明に紋が入っていると書かれていてもケース外からだ確認できない所があったので、見れるように展示して欲しかった。
- ・地元三重県全域の資料が少ない
- ・甲冑の説明札が見えにくかった。
- ・刀の寸法を書いてほしい
- ・ガラスが美しすぎて、鼻や額をぶつける人が多いので、どうかして下さい
- ・今回M i e M uのサイトを見たのですが、展示品一覧PDFが見あたらず、来館してみたらパンフがありました。ここまで良く、マニアックな展示をされているのに、何が出ているのか判らないのはとても残念で、来館者のばす機会を失っていると感じました。
- ・刀の刃が出てないやつを見せてほしいかった。
- ・子どもが待ってられる用なスペースがあり良いと思う。
- ・槍などに展示 No、を近くについて欲しかったです。それが何番がわかりにくかったので。
- ・質問コーナーがほしい。
- ・すねあてにペットボトルが見えました
- ・江戸時代のものにかたよっている気がした。出品者の幅を広げてほしい。室町後期・桃山のものがもっとみたい。時代比定の方法を教えてください 大名具足は見あきた
- ・時代ごとの変遷がわかるような流れで展示されると良いかも
- ・槍の説明(パンフ)

- ・181・182 大筒をかまえたようすがしりたかった
- ・大きさは見てわかるが、重量はわからないので、それも説明の中に入れてほしい。
- ・もう少し各甲冑の詳しい解説が欲しかった 由来等
- ・一つひとつの展示にくわしく解説
- ・写真撮影をしている人がいる。スタッフを配置すべき
- ・外国語記述

(2) 展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。

- ・三重大学学生に論文を書かせたい
- ・時代と歴史を感じました
- ・甲冑人気投票したらおもしろい
- ・手作り甲冑を行っているので作り方を考えて作ってみようと思う
- ・歴史の教科書やテレビで見るのとちがい、目の前に現物があると少しばかりの迫力があつた
- ・後世に残してほしいと思います。
- ・昔の色々なものがみれてよかった
- ・最後のコーナーで本物の甲冑をさわって持ちあげることができてよかった
- ・自身を武者行列等に参加しているので、時代考証の参考になる
- ・藤堂高虎、虎高公は地元の(甲良町)方々なので展示品があつて嬉しいです”
- ・太刀の紐の美しさに感動しました
- ・日本の昔からの技能、技術はすごい
- ・藤堂家の品が見られた
- ・無料でこの内容の展示はスバラシイです
- ・すごい文化である
- ・昔の人すごい
- ・展示物全てが近くでみるのが初めてだったので楽しめました
- ・戦国時代や江戸時代の物が見れてよかったです。
- ・いろんな工夫がされているんだと思った。
- ・いろいろとお城や展示品を見てきましたが今回、一番インスピレーションを感じました。
- ・昔の戦大変だなあ
- ・いがいと重い
- ・実用性はもとよりデザイン的な面も大切にされているのはすばらしい
- ・甲冑の量が多いので、争いがどのくらいあつたかが分かりました。
- ・子どももよろいをきるんだなあと思いました
- ・水軍様の甲冑があること

- ・次はどこで展示するのか？簡潔な説明がほしい
- ・時代劇はやっぱりよかった
- ・身近に拝見できて仕事の丁寧さに感動しました
- ・歴史を感じる事ができて良かったです。
- ・甲冑着用の際の異同や戦の時の苦労話(裏話)
- ・江戸の技術のすばらしさ
- ・むかしのものがいっぱいこっていてうれしい。
- ・スバラシイ！！
- ・日本古来の武道はずばらしい。外国人に発進したい
- ・昔の技術の高さ、デザインの多さ
- ・外国人にみせたい
- ・時代劇を見るのがおもしろくなる
- ・日本の武具はその域を越えて芸術品であると認識した
- ・重い。
- ・おもたいぼうしでかつけれないようにしている
- ・鉄のくつが戦いおのきにやくにたつと思つた。
- ・足軽の甲冑から高虎のかぶとまで、多く甲冑があつて楽しかつた
- ・日本の技術、職人技のすごさを改めて感じた
- ・ぼくも作つてみたい。
- ・ほしくなつた。
- ・むかしのぶきがみれてすごいと思つました。
- ・自分の知らない歴史を知る事ができ、新しい事、過去を学ぶ事の大切さを感じる事ができた
- ・よく集めていただきました。
- ・今回の展示はすごくよかつた！もっと宣伝してもいいくらい！
- ・戦いはいやだ
- ・製作意欲がわきました
- ・日本の伝統工芸に興味があつた
- ・自元、高校の辺りの刀工を初めて知りました。
- ・形状や色づかいが創作の参考になつた
- ・日本の歴史
- ・無料なのによく数、種類をそろえたと
- ・甲冑や武器を見る事が出来て良かったです。
- ・桃山時代と江戸で甲冑などがどううつり替つたかが分かり、とても刺激となつた
- ・かっけー
- ・その時代により形がちがつたり時代はいけいがあつたこと
- ・デザインの良さ
- ・またきたいです
- ・見せるだけではなく一步踏み込んだ展示になつていて思つました。
- ・昔の人は、すごくかっこいい物をきていたこと
- ・よみにくかつた
- ・おもそーだなーて
- ・すごく昔からあるんだなと思つた
- ・かぶとがいっぱいあつた
- ・おもしろくて、あれをきてたかうなんてすごいと思つた。
- ・説明を(使用)お願いします
- ・外国人の方に見せたい
- ・武具口装飾が美しい 美術品
- ・やる気元気
- ・甲冑の重さにおどろいた
- ・装飾された矢尻が魅力的だつた
- ・甲冑をまじかに見れてよかつたです
- ・やる気、元気 昔の人の知恵、外国人にみせたい
- ・戦う為に作られたものでも、一つ一つ繊細で美しく、感動した
- ・少しせまかつたので、場所を広げてほしい
- ・もっと武器の種類をふやしてほしい。
- ・地元文化に根づいた企画、いつもありがとうございます。
- ・足軽胴は貸し出されてた。
- ・様々な甲冑のデザインや形に感動した。
- ・かぶとや面具(?)を見ると恐怖を感じてましたが、怖いものではなくなりました。(私と同じ、ふつうの人間が使つていたものだと思つて)
- ・西暦年号が必要
- ・歴史小説を買つて帰ります
- ・日本の今までの歴史と感じ取る事ができました
- ・甲冑持てるとか、ココ位だと思います。
- ・こうふんした
- ・甲冑が重そうだつた
- ・日本のすばらしい文化
- ・説明文の事で漢字がよめなかつた。
- ・昔の人の技術が今も継がれていて思つました。
- ・昔使つていたかんじがあつた
- ・かぶとの上に穴があいてるのはなぜか気になつた。
- ・古代から200年前くらいの戦争の道具を美しいと思つ、よろこべるようになるのに、ずいぶん時間が必要ですね。70年前の戦争もそうなるのでしょうか。
- ・こんなにたくさんの甲冑を一度に見る機会がないのでいろいろ比べられておもしろかつたです。
- ・むかし、こんな物着て、たたかつていたんだと思つました。
- ・時代別の展示、戦国期の兜等
- ・種類の多さに刺激を受けました。
- ・昔のものがいっぱいあつてすごかつた。

- ・精巧に作られていることに改めて感動しました
- ・写真等で見るのより大きく感じました。これを身につけていた武士等に改めて思いをはせました。 スゴイ！！
- ・よくぞ保存出来たものと想ふ（戦後進駐軍命で供出有）
- ・日本の甲冑は素晴らしい
- ・世界の武器や武具と比べて見てみたい
- ・武具の裏側が見れてよかった
- ・具足一揃製作計画中に付、大変参考になった。
- ・おもしろかった
- ・マニアにはいいところ
- ・歴史を感じた
- ・道具の美しい出来
- ・よろいはおもしろ

(3) 展示や説明・キャプションはわかりやすかったですか。

- ・企画展でのコメントが回答についている説明文にいきなり専門用語が出てきてさっぱりわからない。たとえば「しろこ」て何？と思ったらパンフ2ページ目を見てはじめてわかった。ほとんどがそのような感じ。
- ・簡素に過ぎる レジュメがあつたりポンプで要訳がもっとあつてもよい
- ・甲冑会の人々の解説
- ・説明者が居てくれた事
- ・細かく説明されていたから
- ・漢字がおおかったから
- ・順路がわかりにくい
- ・ふりがながないから
- ・もっとわかりやすい説明があればよい
- ・漢字によみがながついていて
- ・説明がわかりやすい。
- ・はなしていないのでわかりません。
- ・説明があつたから
- ・説明丁寧
- ・書いてある言葉がむずかしかった

- ・どのように使ったのか、具体的なイメージが持てるという
- ・全面に記しました。詳細すぎて全体が把握できない
- ・説明文にフリガナを増やすと小学生位でも理解できるかなと思う。
- ・ひらがなが多くてよかった子供にも読める。意味は？だろうけれど
- ・いみなどをこまかくかいてあつた
- ・いいんですけどキャプションのいみがわかりません
- ・スクリーン見たいなんかがあるとわかりやすい
- ・うまく展示していた
- ・字が小さかった。
- ・説明する人がいてもよいと思
- ・明かりをもうちょっと明るくしてほしい
- ・図解があれば、子ども女でも分かりやすいと思う展示が多くあります
- ・甲冑のうつりかわり等の流れの説明もあればもっと分かりやすかつたと思
- ・もう少し近く書いてあると見やすかつたと思
- ・なんのためにある(武具など)かを知りたかつたです
- ・弓のコーナーでどの様に弓が入っていたのかを見せて下さつていたのは他では中々見られないので勉強になりました。
- ・くわしくかいてあつたから
- ・漢字がよめないからふりがなをお願いします。
- ・ふりがなもふつてあつて、知らない漢字も読むことができた。
- ・少しくわしく説明してもらいたい。
- ・ガイドがいないとよく分からない
- ・もう少し物の由来を詳しくしていただけると有難い。
- ・説明がくわしく書いてあつたから



展示会場入り口風景



展示会場風景

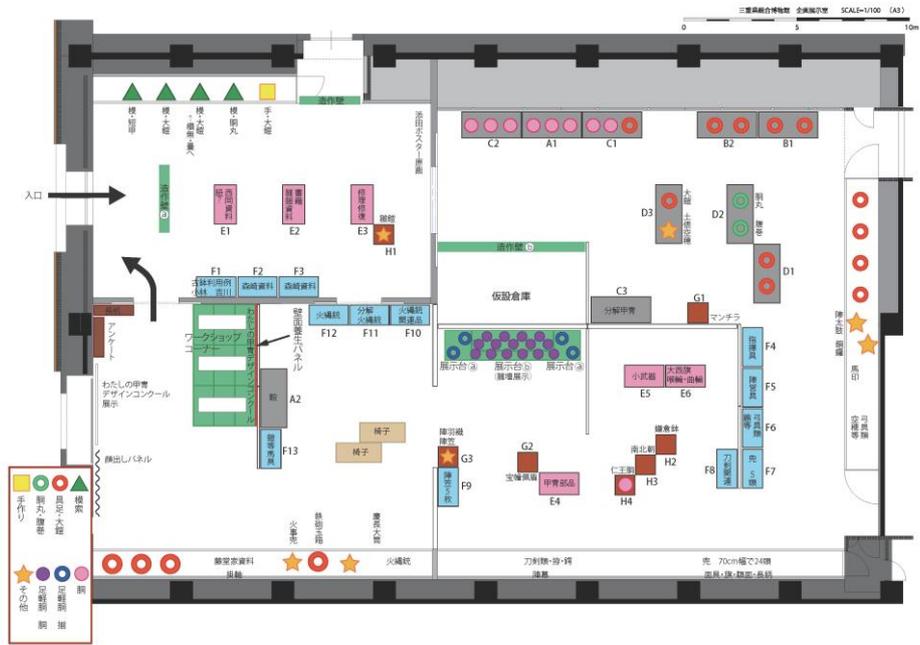


展示会場風景

展示解説を行う三重ドリームクラブ会員



ワークショップコーナー



展示会場レイアウト

製作物



ポスター



チラシ(表)



チラシ(裏)



児童生徒用チラシ(表)



児童生徒用チラシ(裏)



展示資料一覽

NO	資料名	点数	時代
1	高虎公戰陣武者面	1	現代
2	模造 三角板鋸留短甲・衝角付冑	1	昭和
3	檜鳥糸肩赤威胴丸写	1	現代
4	赤糸威大鎧写 明珍宗美、宗恭作	1	昭和
5	紺糸威大鎧復元品 三浦弥之助作	1	昭和
6	大鎧	1	平成
7	逆沢瀉威鎧雛形写 西岡文夫・千鶴作	1	平成
8	『甲冑製作辨』上・中・下合冊	1	江戸
9	『尚古鎧色一覽』上・下二冊	2	江戸
10	『武器器圖』全	1	江戸
11	『甲冑着用早學』上・下二冊	2	江戸
12	筋兜の片面手入れ品	1	現代
13	袖の右本歌と左新作の比較展示	1	現代
14	刀の窓開け品展示	1	現代
15	小札見本 西岡文夫作	4	現代
16	盛上本小札の製作工程 大野惟人作	1式	現代
17	威糸各種 西岡千鶴作	1式	現代
18	金物各種 作者 相原健作、上野修路 奥村公規、箱田務	1式	現代
19	絵草 国宝・赤糸威鎧(東京・御嶽神社蔵)の弦走草写 森田朝二郎作	1	現代
20	絵草 国宝・赤糸威鎧(梅鶯金物 奈良・春日大社蔵)の弦走草写 森田朝二郎作	1	現代
21	絵草 国宝・紺糸威鎧(広島・厳島神社蔵)の弦走草写 西岡文夫作	1	現代
22	阿古陀形兜 木製 (童用)	1	現代
	阿古陀形兜 鉄型	1	現代
	阿古陀形兜鉢	1	現代
	鉄二十四間突籃形兜	1	現代
	鉄黒漆塗面類	1	現代
23	古鉢利用実例	1	現代
24	色々威腹巻 附大袖、喉輪	1	室町後期
25	色々威胴丸	1	室町後期
26	鉄浅葱糸威丸胴	1	桃山
27	鉄黒漆塗七枚胴	1	江戸
28	黒鞆革包萌葱糸威胸取二枚胴	1	江戸
29	鉄紫糸威胸腰取二枚胴	1	江戸
30	黒漆塗紺糸素懸威腹当	1	江戸
31	革包亀甲金童具足	1	江戸
32	練革錆漆塗妙文字仏胴	1	江戸
33	片肌脱ぎ仁王胴	1	桃山
34	鉄青漆塗五枚胴具足	1	桃山
35	鉄錆地縹糸鋸留腰取五枚胴具足 兜鉢銘 常州住早乙女家忠	1	江戸
36	鉄錆地紺糸胸取縦矧二枚胴具足 三河国西尾藩今井家伝来	1	江戸

NO	資料名	点数	時代
37	鉄黒漆塗切付小札紺糸威二枚胴具足 兜鉢銘 上州住成重作	1	江戸中期 兜鉢は室町後期
38	鉄黒漆塗伊予札朱日輪松葉糸威二枚胴具足	1	桃山～江戸初期
39	煉革黒漆塗布袋二枚胴具足	1	江戸
40	鉄黒漆塗紫糸素懸威五枚胴具足	1	桃山
41	鉄白檀塗紫糸威胸取二枚胴具足	1	桃山
42	鉄黒漆塗縹糸胸取金茶威二枚胴具足 龍野藩主脇坂家伝来	1	江戸後期
43	紺糸素懸威胸取切付伊予札六枚胴具足	1	江戸
44	鉄朱漆塗壘具足	1	江戸
45	鉄青漆塗白糸威二枚胴具足 (分解展示)	1	江戸
46	黒漆塗甲懸	1	江戸
47	黒漆塗甲懸	1	江戸
48	貫・草鞋・足袋	3	江戸
49	葵紋網代土俵空穂	1	江戸
50	緋威大鎧 山城国淀藩主稲葉家伝来	1	江戸後期
51	鉄黒漆塗十六間総覆輪筋兜鉢 銘 春田宗次	1	室町後期
52	鉄錆地十二間阿古陀形兜	1	室町
53	鉄三十枚張三十間大円山星兜鉢	1	鎌倉後期
54	鉄三十二間四方白斎垣付筋兜鉢	1	南北朝
55	鉄錆地六十二間筋兜鉢 銘 直次	1	桃山～江戸初期
56	鉄黒漆塗六十二間筋兜	1	江戸初期
57	鉄黒漆塗十二間筋兜 (仕寄兜)	1	江戸初期
58	鉄黒漆桃形兜	1	桃山～江戸初期
59	鉄黒漆塗古頭形兜	1	室町後期
60	鉄白檀塗古頭形兜	1	桃山～江戸初期
61	鉄錆地漆塗鋸付頭形兜	1	桃山～江戸初期
62	鉄黒漆塗瑞雲蒔絵頭形兜	1	江戸前期
63	鉄金箔押頭形兜	1	桃山～江戸初期
64	鉄錆立て頭形兜 銘 義信	1	江戸
65	鉄金箔押桃形兜	1	桃山
66	鉄金箔押桃形兜	1	桃山
67	鉄金箔押桃形兜	1	桃山
68	鉄黒漆六間突籃形兜 附 面類	1	江戸初期
69	鉄朱漆塗六十二間筋兜	1	桃山～江戸初期
70	煉革黒漆塗五十二間筋兜 銘 安政三二月吉日 岩井安董造之	1	江戸後期
71	鉄黒漆塗十八間総覆輪阿古陀形兜	1	江戸前期
72	鉄黒漆塗六十二間小星兜	1	室町
73	鉄錆地雜賀形兜	1	江戸
74	雜賀形兜	1	江戸
75	鉄黒漆塗六間瓜形兜	1	桃山
76	鉄白檀塗風折烏帽子形兜 金漆銘 源頼次	1	桃山

NO	資料名	点数	時代	NO	資料名	点数	時代
77	鉄黒漆塗烏帽子形兜	1	江戸	117	黒漆塗昇り龍降り龍文蒔絵軍配	1	江戸
78	練革鉄錆地塗兜巾形兜	1	江戸初期	118	黒漆塗軍配	1	江戸
79	鉄黒漆塗変わり頭形兜	1	江戸	119	黒漆塗山の字紋陣中弁当箱	1	江戸
80	黒漆椎実形兜	1	桃山	120	黒漆塗一の角字紋腰桶	1	江戸
81	鉄黒漆塗綿帽子形兜	1	江戸	121	黒漆塗一の角字紋水筒	1	江戸
82	鉄黒漆塗六間額頭形兜	1	江戸	122	兵糧用網袋	1	江戸
83	鉄黒漆塗椎実形兜	1	桃山～江戸初期	123	黒漆塗陣中床几	1	江戸
84	銀覆輪三十二間家紋散陣笠 長門国萩藩主毛利家伝	1	江戸	124	陣鎌	1	江戸
85	黒漆塗金筋入家紋散山形陣笠 長門国萩藩主毛利家伝来	1	江戸	125	龕灯	1	江戸
86	黒漆塗釘抜紋頭形陣笠	1	江戸	126	火串	1	江戸
87	黒漆塗梵字蒔絵四方反頭形白熊付陣笠	1	江戸	127	懐中篝火	1	江戸
88	黒漆塗九曜紋蒔絵八角形陣笠	1	江戸	128	陣太鼓	1	江戸
89	黒漆塗十曜紋十六間段重平陣笠	1	江戸	129	銅鑼	1	江戸
90	鉄溜漆塗半首	1	江戸	130	横木瓜紋五間陣幕 附 金剛網	1	江戸
91	鉄錆地隆武類 銘 義通	1	室町後期	131	刀 無銘 備州長船盛景	1	南北朝
92	鉄錆地歯形付烈勢類 銘 義一	1	江戸末期	132	朱漆塗打刀拵	1	江戸
93	鉄錆地塗白髭類	1	江戸後期	133	黒漆塗打刀拵	1	江戸
94	鉄黒漆塗烏天狗類	1	江戸後期	134	金梨子地葵紋蒔絵糸巻太刀拵	1	明治～昭和
95	鉄錆地鷹類	1	江戸中期	135	金梨子地扇紋蒔絵糸巻太刀拵	1	江戸
96	鉄錆地半類	1	江戸	136	七宝造小太刀拵	1	江戸
97	面具	10	江戸	137	青貝造糸巻太刀拵	1	江戸
98	喉輪 附 明珍家折紙	1式	室町後期	138	研出鮫鞘糸巻小太刀拵	1	江戸
99	鉄黒漆塗切付小札紺糸威廻輪	1	江戸	139	鐺各種	8	江戸
100	大馬標	1	江戸	140	銀銅蛙巻太刀拵写	1	明治～大正
101	日輪銀半月馬標 一對	1対	江戸	141	錦包籐巻太刀拵写	1	明治～大正
102	朱塗滋藤弓(重藤弓) 銘 かん七(花押)	2	江戸	142	旗 家紋揃い	2	江戸
103	鏃各種	1式	江戸	143	茜染め山道文四半旗	1	江戸
104	黒漆根笹紋大和空穂	1	江戸	144	合印(讃岐国高松藩松平家中 大西行彰所持)	1式	江戸
105	金箔押朱丸に違い鷹の羽根紋空穂	1	江戸	145	二筋揃投翰付七尺槍 肥後本多家伝来	2	江戸
106	丸に三星紋青貝微塵螺鈿空穂	1	江戸	146	管槍	1	江戸
107	矢(鏑矢・征矢・神頭矢等)	1式	江戸	147	黒墨塗陣串	1	江戸
108	短弓弓矢台	1	江戸	148	黒漆塗仕込槍付陣串 銘 助房	1	江戸
109	黒漆塗箆	1	江戸	149	筑紫薙刀	1	江戸
110	弓籠手	1	江戸	150	大身槍	1	江戸
111	鍔革弓胸当	1	江戸	151	南蛮棒	1	江戸
112	襖	1	江戸	152	卍分銅付ちぎり木棒	1	江戸
113	朱漆塗日輪に青海波文軍扇	1	江戸	153	太刀髷い	1	江戸
114	黒漆塗蛇の目紋蒔絵日輪軍扇 伊予国大洲藩加藤家伝来	1	江戸	154	袖絡	1	江戸
115	陣貝 播磨国安松家伝来	1	江戸	155	鎖分銅付袖絡	1	江戸
116	朱房采配 摂津国三田藩主九鬼家伝来	1	江戸	156	紺糸威大鎧復元図 山田紫光画	1	昭和

NO	資料名	点数	時代
157	引肌	1	江戸
158	黒漆塗鞆革腰当	2	江戸
159	黒漆塗鞆革腰当	1	江戸
160	螺鈿刀筒	1	江戸
161	宝幢佩楯	1	江戸
162	脇引	1	安土桃山
163	脇引	1	室町
164	脇引 紅糸威	1	室町後期
165	広袖	1	江戸
166	変り袖	1	江戸
167	木製十手	1	江戸
168	鐔十手	2	江戸
169	十手	2	江戸
170	手突き矢(打根)	1	江戸
171	手裏剣・撒菱	7	江戸
172	鎖鎌	1	江戸
173	鉄如意 野晒し	1	江戸
174	鎖竜屯	1	江戸
175	精好地一文字三星沢瀉紋陣羽織 長門国萩藩主毛利家伝来	1	江戸
176	満知羅	1	江戸
177	胴	11	江戸
178	胴と陣笠揃	4	江戸
179	足輕具足	1	江戸
180	足輕具足	1	江戸
181	慶長大筒	1	江戸
182	慶長大筒	1	江戸
183	棒火矢	1	江戸
184	火矢筒	1	江戸
185	火矢筒	1	江戸
186	馬上筒	1	江戸
187	スナイドル銃	1	19世紀
188	狭間筒	1	江戸
189	丸八合印玉箱 尾張徳川家城備品	1	江戸
190	火縄銃関連用具	10	江戸
191	黒漆塗朱蛇の目紋鉄砲袋 伊予国大洲藩加藤家伝来	1	江戸
192	朱漆塗鞆革製金長門沢瀉紋鉄砲袋	2	江戸
193	九曜紋鉄砲筒	1	江戸
194	火縄銃関連用具	10	江戸
195	火縄銃 田附流六匁筒	1	江戸
196	黒漆塗軍陣鞍 附 轡・根鞭	1	室町

NO	資料名	点数	時代
197	三保の松原岡水干鞍 附 轡・呼子付藤巻鞭	1	江戸
198	桜花文四ツ目菱紋蒔絵水干鞍	1	江戸
199	鳳凰蒔絵梨地鞍籠 鞍銘 沼田上野介光延作 萬治二年八月日	1	江戸
200	螺鈿馬柄杓	1	江戸
201	螺鈿鼻捻	1	江戸
202	黒漆塗巴紋馬柄杓	1	江戸
203	黒漆塗藤巻鞭	1	江戸
204	錆漆塗白糸威二枚胴具足	1	江戸
205	煉革黒漆塗鱗札引合せ二枚胴具足 藤堂高通所用	1	江戸前期
206	水牛角兜添鉄錆地鋳打二枚胴具足	1	江戸
207	鉄黒漆塗紫糸威二枚胴童具足 久居藩主藤堂家伝来	1	江戸中期
208	黒漆塗頭形兜	1	江戸
209	鉄唐冠形兜 伝藤堂高虎所用	1	江戸初期
210	高虎書状	1	江戸
211	番指物	1	江戸
212	大和尻掛刀	1	江戸
213	懐刀	1	江戸
214	火縄銃(十匁筒)銘 勢州津葵為二 秀重	1	江戸
215	火縄銃(十匁筒)銘 勢州津青井為二 秀重	1	江戸
216	火事兜の垂	1	江戸

## 事業Ⅱ 私の甲冑デザインコンクール

### 1. 趣 旨

アクティブラーニングの手法(課題探究型の学習)によって、我が国の優れたモノづくり技術によって作り上げられている甲冑の構造を理解し、すぐれたモノづくり技術の伝統を知るとともに、子どもたち自身のオリジナリティを活かした作品づくりを行うことにより、モノづくりの楽しさを学ぶ機会としました。

### 2 取組姿勢

実施期間を展示期間中とし、展示を見た子どもたちが、展示室内のワークショップコーナーでオリジナル甲冑や兜をデザインすることとしました。このことにより、何度も実物の甲冑を観察に行ったり、考えたりできることとしました。

子どもたちにとってはなじみの薄い甲冑の形がイメージしやすいよう外枠の線を描いたエントリーシートを用意し、とくに兜の形状や前立てなど、特徴となる部分に独自性を加味できるようにしました。

### 3 実施概要

日時：2月3日(土)～3月18日(日)

9:00～17:00、土日祝日は～19:00 まで  
(甲冑展開催期間中)

場所：企画展示室 ワorkshopコーナー

内容：展示で様々な甲冑や兜を見た後で、子どもたちに自分だけのオリジナル甲冑・兜をデザインしてもらいました。甲冑の外枠のみを描いた台紙に、色鉛筆で模様や色つけを行い、独自の甲冑をデザインし、最後にオリジナル甲冑に名前をつけて完成としました。出来上がった作品をコンクールに応募する場合は、エントリーシートに記入して提出してもらい、甲冑展期間中展示室内で展示しました。子ども甲冑デザインコンクールで、優れた作品には賞を授与し、春休み期間中に館内で展示を行いました。

準備物：エントリー用紙(甲冑用A5版、兜用A4判)、色鉛筆

シートの配付数：2,041枚

エントリー数：甲冑 723点 兜 384点

### 4 私の甲冑デザインコンクールの入賞者の選定

日時：平成30年3月21日(水・祝)

入賞作品選考：平成30年3月21日(水・祝)

選考委員：伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会役員

入賞作品

三重県総合博物館長賞 1作品

日本甲冑武具研究保存会長賞 1作品

造形部門(伝統的な甲冑の形状を踏まえたうえで、新たな形状ができています)優秀賞(数名)、最優秀賞(1名)

色彩部門(伝統的な色彩に加え、子どもたちが持つ現代の色彩感覚が良く反映されている)優秀賞(数名)、最優秀賞(1名)

独創性部門(形状・色彩において現代の独創的な感性が随所に表れている)優秀賞(数名)、最優秀賞(1名)

学芸員特別賞(1名)

選考方法：エントリーされた甲冑 723点、兜 384点のうち、名前等の情報が記載されていないものを抜いた甲冑 449点、兜 265点の中から、出席委員6人がそれぞれ造形部門、色彩部門、独創性部門の優秀作品(甲冑2点、兜1点)を選び、その中から、三重県総合博物館長賞1作品、日本甲冑武具研究保存会長賞1作品を選ぶとともに、各最優秀賞を選びました。また学芸員特別賞は、各賞に選ばれた作品以外の中から学芸員が合議により決定しました。

入賞作品は、3月24日(土)から4月8日(日)まで、学習交流スペースで展示します。



ワークショップコーナーでデザイン作成中



エントリーされた作品

受賞作品 三重県総合博物館長賞



作品名  
「みえぞうのように強くなりたい」  
一般

日本甲冑武具研究保存会長賞

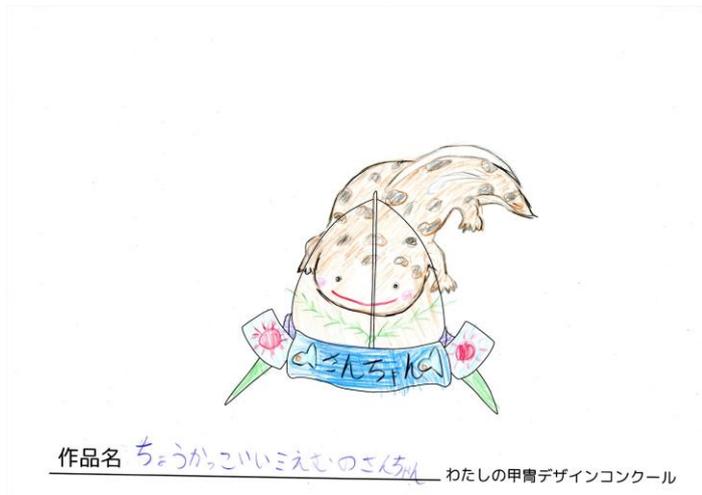


作品名  
「理想の武将の甲冑」  
一般

学芸員特別賞



作品名  
「大漁伊勢海老甲冑」  
中学2年生



作品名 ちょうかつこいいみえむのさんちゃん わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「ちょうかつこいいみえむのさんちゃん」  
小学2年生



作品名 リアルな「兜」 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「リアルな兜」  
一般

最優秀賞 造形部門



作品名 式骨者  
わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「無骨者」

一般

最優秀賞 色彩部門



作品名 つよし! Mie まもる ガード  
わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「つよし! Mie まもる ガード」

一般

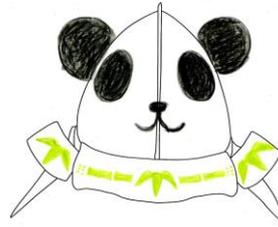
最優秀賞 独創性部門



作品名 ゆめカワ 甲冑  
わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「ゆめカワ甲冑」

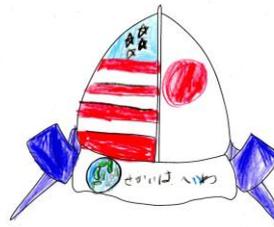
中学2年生



作品名 白黒はまりつけようぜー  
わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「白黒はまりつけようぜー」

一般



作品名 せかいへいわかぶと  
わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「せかいへいわかぶと」

小学2年生



作品名 鬼木桜の兜  
わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「鬼桜の兜」

小学5年生

優秀賞 造形部門



作品名  
「つきとたいよう」

小学3年生



作品名  
「紺糸威鳥帽形兜・紺糸威五枚胴具足」

小学3年生



作品名  
「朱」

小学6年生



作品名  
「村上赤黒具足」

小学3年生



作品名  
「猫又具足」

一般



作品名  
「日本三つ丸具足(金)」

小学6年生



作品名  
「伊達政宗の生みの親」

小学4年生



作品名  
「真田と毛りがまざったかぶと」

小学3年生



作品名 りゅうかぶと わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「りゅうかぶと」

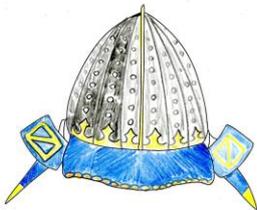
小学〇年生



作品名 天をつかさどるよろい わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「天をつかさどるよろい」

小学6年生



作品名 わようせつちゅうかぶと わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「わようせつちゅうかぶと」

保育園

優秀賞 色彩部門



作品名  
「ふじさん」

小学1年生



作品名  
「月夜空星月胴具足」

小学6年生



作品名  
「南国甲冑 BANANA のナ」

一般



作品名  
「愛の戦士」

一般



作品名  
「月食のかぶと」

一般 (大学生)



作品名  
「はるのよらい」

保育園



作品名  
「黒赤鉄鎧」

小学5年生



作品名  
「御来光」

一般



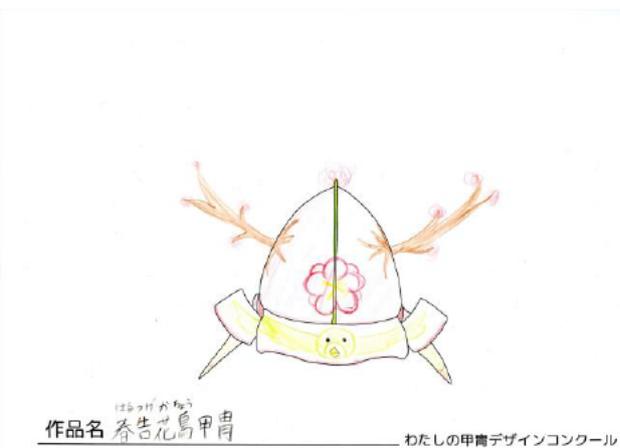
作品名  
「かぶき者の甲ちゅう」

小学5年生



作品名  
「スーパーラブリー甲冑」

小学3年生



作品名  
「春告花鳥甲冑」

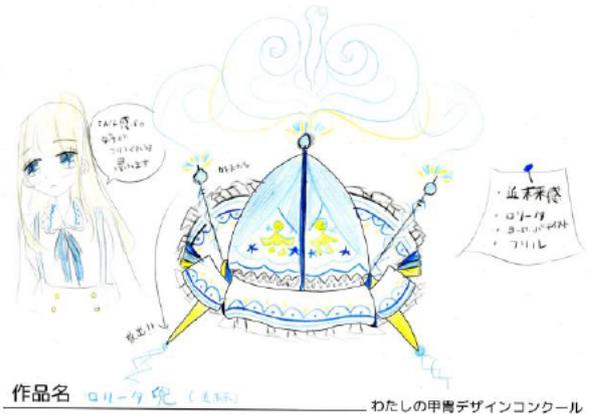
中学2年生



作品名 やすかわりょうしん わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「やすかわりょうしん」

小学1年生・一般



作品名 ロリータ兜 [近未来] わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「ロリータ兜[近未来]」

中学1年生

優秀賞 独創性部門



作品名 ピカよらい わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「ピカよらい」

一般



作品名 黄金の竜の甲冑 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「黄金の竜の甲冑」

小学3年生



じゅうきいマン  
作品名 HARU わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「じゅうきいマン HARU」

一般



作品名 GO GO ゴーちゃんかわいい! わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「GO GO ゴーちゃんかわいい!」  
小学2年生



作品名 旬の魚はいかが? わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「旬の魚はいかが?」

一般



作品名 笑う甲冑 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「笑う甲冑」

小学6年生



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「にんじゃ」

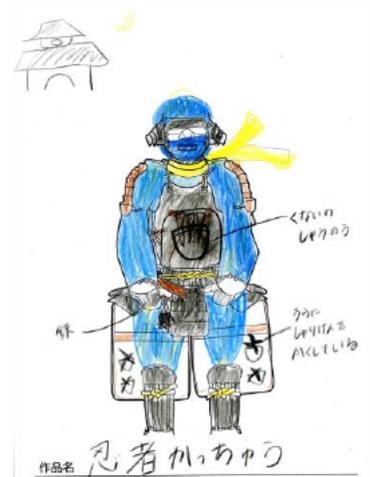
保育園



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「守護將軍」

中学1年生



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「忍者かつちゅう」

高校3年生



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「いいね！みんなで仲良くやろうぜー」

一般



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「地球の中に...よろい」

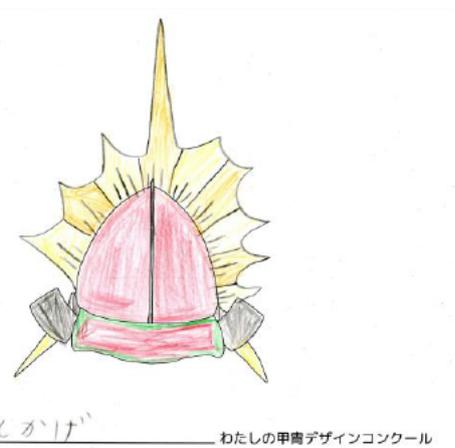
一般



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「三重の大木」

中学1年生



作品名 わたしの甲冑デザインコンクール

作品名  
「魚人とかげ」

小学1年生



作品名  
「日本刀かぶと」

小学5年生

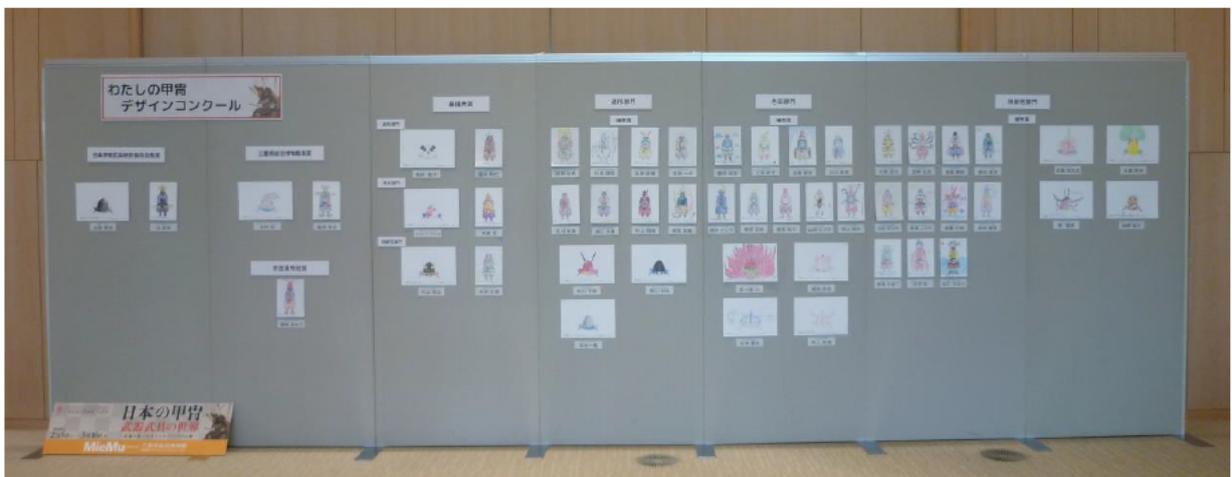


作品名  
「えっ?!今日戦い休みと違うんですう?」

一般



選考風景



エントランスでの受賞作品の展示

# 事業Ⅲ 子どもたちによる甲冑の作り方調査

## 及び甲冑づくり講座

### 1. 趣 旨

アクティブラーニングの手法(課題探究型学習)によって、我が国の優れたモノづくり技術によって作り上げられている甲冑の構造を理解し、すぐれたモノづくり技術の伝統を知るとともに、子どもたち自身が実際に甲冑づくりを体験することにより、モノづくりの楽しさを学びました。

### 2 取組姿勢

まず、甲冑に関する基礎的知識を学習し、そのうえで、参加者全員で力を合わせて一領を作りあげることとしました。年齢の異なる子どもたちが一緒になって作りあげることができるよう、講師をはじめ、三重ドリームクラブメンバーの綿密な準備及び補助のもと行いました。

### 3 実施概要

日時：平成30年2月18日(土)10:40～16:00  
場所：レクチャールーム  
講師：礒竹正道さん(三重のまんなか・まちかど博物館長 高虎手作り甲冑教室 講師)

内容：午前中は、甲冑の作り方調査で甲冑について学び、甲冑に関する基礎的な知識をもとに、子どもたち自身が実際に甲冑のパーツや編み方の手法などについて調べ学習を行いました。具体的には、甲冑の胴や袖の作りかたに種類があることやその編み方の手法を調査しました。その後、身に着けた状態でその機能性を考えました。午後からは5つの班に分かれ、分担して制作したパーツを組み合わせて1領を作り上げました。出来上がった作品は、名前をつけて、展示室内に展示しました。

参加者：一般公募し、申し込んだ小学生高学年および中学生24人

タイムスケジュール(10:10～受付開始)

- 10:40～11:00 挨拶、講師紹介
- 11:00～12:00 甲冑の作り方調査
- 12:00～13:00 休憩(昼食)
- 13:00～16:00 甲冑づくり体験

### 4 アンケートの結果(12人回答)

1) このイベントについて

A おもしろいことはありましたか

	(人)	(%)
① いいえ	0	0.0
② はい	11	91.7
回答なし	1	8.3

(内容)

- ・甲冑のつくりの一つ一つのいみについてしれたこと
- ・糸を通すこと。知らなかったことが分かった
- ・できた甲ちゅうを着たこと
- ・甲ちゅう作り
- ・作るのが面白かった。
- ・始まるまでに初めて知ることがたくさんあったこと。

B 直したほうがよいことはありましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	11	91.7
② はい	1	8.3
回答なし	0	0.0

(内容)

- ・なにもしていないときがつまらなかった

C イベントに参加して何か思いましたか？

	(人)	(%)
① いいえ	4.0	33.3
② はい	6.0	50.0
回答なし	1	8.3

(内容)

- ・楽しかった
- ・鎧はそんなに甘くなかった。
- ・甲ちゅう作りってかんたんだと思っていたけれど、むずかしかった。
- ・楽しかった
- ・まだまだ知らないことが多いと思った

D このイベントに満足しましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	0	0.0
② どちらかという「いいえ」	0	0.0

③ どちらかという「はい」	0	0.0
④ はい	12	100.0
回答なし	0	0.0

E このイベントについてご感想・ご意見・ご要望などありましたら、ご自由に記入してください。

- ・楽しかった
- ・楽しく甲ちゅうについて学べた
- ・かっちゅうについてしれてよかった。
- ・知らない人も多かったけど、みんなと協力してかんせいさせることができてよかった。
- ・着たとき、とてもはずかしかった。
- ・今後も、甲冑と近くで関わられるようなイベントをお願いします。
- ・甲冑なんて、部品に穴をあけてひもをとおすだけと思っていたけど、いがいとむずかしかった。
- ・楽しかった。又やってください。
- ・いろいろなことがわかったので良かった。
- ・知らない人と協力できてよかった

F 今後聞いてみたい講演、テーマなどがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・楽しそうなのがあったら
- ・甲ちゅうに関するイベント
- ・あれば参加してみたい
- ・戦国時代などのものは行ってみたいです。
- ・今はなし
- ・プログラミング
- ・ある
- ・今日のようなイベント

## 2) あなたご自身について

### A 性別

	(人)	(%)
① 男性	8	66.7
② 女性	3	25.0
回答なし	0	0.0

### B 年齢

	(人)	(%)
10 歳	1	8.3
11 歳	5	41.7
12 歳	3	25.0
13 歳	1	8.3
14 歳	1	8.3
回答なし	1	8.3

### C 居住地

	(人)	(%)
① 津市内	2	16.7
② 三重県内	8	66.7
③ 三重県外	0	0.0
回答なし	2	16.7

#### ②三重県内内訳

	(人)	(%)
伊賀市	2	
鈴鹿市	1	
四日市市	2	
亀山市	1	
松阪市	1	
伊勢市	1	

#### ③三重県外内訳

	(人)	(%)
愛知県	2	
京都府	1	

D このイベントを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

	(人)	(%)
① ポスター	4	33.3
② チラシ	9	75.0
③ 新聞		0.0
④ テレビ		0.0
⑤ 雑誌		0.0
⑥ 「県政だより」		0.0
⑦ 館の公式ホームページ	2	16.7
⑧ そのほかのホームページ・ブログ		0.0
⑨ 館の Twitter や Facebook		0.0
⑩ そのほかの Twitter や Facebook		0.0
⑪ 直接、人から聞いて		0.0
⑫ その他	1	8.3
回答なし	1	8.3

その他 回答内容

- ・学校

E 三重県総合博物館 miemu に何回行ったことがありますか？

	(人)	(%)
① はじめて	2	18.7
② 2 回目	0	0.0
③ 3 回目	2	16.7
④ 4 回以上	6	50.0
回答なし	2	16.7

## 1. 甲冑の作り方調査

### ①甲冑様式の変遷について

甲冑は身を守る道具から、武器戦闘方に対応するように進化していった。  
騎馬戦から徒歩武者戦へと変化、甲冑の軽量化、草摺の細分化が進む。

### ②使われている技法についての解説

匠の技、工夫がされていることを、実物を見ながら解説しました。

例)

鉄板は面で使用するより、端を折ってL字の断面にする方が強度が増す。  
ひじなどの屈伸が必要な部分には、鎖を編んでシート状にして使用している。  
鉄は錆びるため、漆を塗ってさびから守った。  
鎬（しのぎ）を作ったり、表面を平滑にして槍などを逸らす工夫をしている。

### ③着用法の解説

甲冑の名所（などころ：部分名称）を紹介。  
甲冑を着た状態で、動きの解説を行いました。

### ④弱点の解説

実際に戦う動きをして、弱点の箇所などを解説しました。



開講式



甲冑の様式変化について



講師の話熱心に聴く参加者



実物を前に子どもたちの質問に答える講師



実物を観ながらその技術を調べる参加者



参加者の質問を聴く講師



着用法の解説を聴く参加者



甲冑着用の実演



着用法の解説をする講師



「勝って兜の緒を締める」



甲冑の弱点の解説



甲冑の弱点の解説

## 2. 甲冑づくり講座

### 1. 準備物

#### 材料

黒ポリプロピレン（PP）シート

565×980 0.75mm 5枚

黒スプレー（ツヤ有） 1本

下地処理スプレー 1本

カシメ鋳 80袋（1袋20個入り 4袋）

白・朱・紺の平紐 60m

各種布

各部位に必要な材料

	兜	袖	胴	草・揺	脛当	籠手	佩楯	使用量
電線	3.0m	—						3.00m
ナメ針金	0.7m	0.4m		1.1m				2.2m
白紐	0.4m	1.9m		6.9m				63.70m
朱紐	2.9m	1.8m		5.4m				
紺紐	6.3m	7.0m		31.1m				
太丸紐	2.0m		3.0m					5.00m
中丸紐		1.0m	2.6m			5.2m		8.8m
黒綴紐	3本				2本	3本		8本
伏縫紐							2m	2m
菊鋳	5個							5個
星鋳	2個							2個
菊座環	1個		1個					2個
小鳩目						24個		24個
大鳩目			16個					16個
小カシメ	2個	14個	144個			22個	36個	218個
前立止	1個							1個

パンピーノ	1個							1個
マンボ釘			2組					2組
金スプレー	○	○	○	○				1本
パイステープ					○	○		4袋
洗濯網					○	○	○	1枚
勝虫革							○	4枚

### 道具類

ハサミ、カッター、GPクリア、回転パンチ、ラジオペンチ、G17、セロハンテープ、金づち、ラジオペンチ、ペンチ、ハトメペンチ大、千枚通し、木工用ボンド

### 2. 班別作業

1班あたり4～5人程度の班に分かれ、各パーツの製作を行いました。

班構成：兜班、前胴班、後胴班、袖班、籠手班、佩楯・脛当班

- \*参加者数に合わせて、班分けは臨機応変に行い、班同士の合併も可能。
- \*参加者が少なければ、さらに事前作り込みを行う。
- \*各班には、兼任を含め、個別に指導員が付く。

### 各班の作業

班名	作業内容	注意点等	道具類
兜班	鉢の天辺製作・取付	黒輪(大と小)2枚をハサミで切り出し。金輪3枚に刻みを入れ、刻みの無い黒輪と積み重ね鉢へ接着する。	ハサミ・カッター・GPクリア・回転パンチ・ラジオペンチ
	後勝環取付	鉢の前後を間違えないこと。	
	菱縫残り部分完成	止めはG17で行う。	
	3段目4段目の威付け	威間隔に注意し、止めはG17。	
	両脇の力糸の縫延	威糸は2等分して使用	
	鉢と鍔の合体	外鉢と鍔を菊鋏で取付後、内鉢を黒紐で取り付ける。 左右の3個組の穴は、吹返側2個が紐用	金づち・ラジオペンチ・千枚通し・木工用ボンド・ハサミ・板
	忍緒取付	黒紐と忍緒の端処理を木工ボンドで行う	
	眉庇取付	中央1対の穴は星鋏を使用。 左右の穴はカシメ鋏でラジオペンチを使用。	
	前立基部取付	貼り付け。	
前立取付	差し込み		
前胴班	采配付の鍔取付	取付後、クラフトテープを張り付ける。	ラジオペンチ・木工用ボンド・ポンチ大・ポンチ用ペンチ・セ
	両脇引合わせの緒取付	取付後、緒の末端処理は木工用ボンドを使う。	
	(片側)高紐用穴あけ、鳩目付	裏側に、穴位置を記入。	
	(片側)高紐、大コハゼの取	紐の末端処理はセロテープを使う。	

	付		ロハンテープ・金づち・板
	1 間分の揺らぎ取付	穴は胴の右端からスタートする。	
	1 間分の力糸縫延	札間隔を常に確認しながら作業する。	
	板札 3 段鋸止	鋸は 33 個	
後胴班	両脇引合わせの緒取付	穴は、回転パンチで開ける。	ラジオペンチ・木工用ボンド・ポンチ大・回転パンチ・ハトメパンチ大・セロハンテープ・金づち・板
	(片側)高紐用穴あけ、鳩目付	表側に、穴位置を記入。	
	高紐、大コハゼの取付	紐の末端処理はセロテープを使う。	
	袖付けコハゼ	穴は、回転パンチで開ける。紐の末端処理は木工用ボンドを使う。	
	1 間分の揺らぎ取付	穴は胴の右端からスタートする。	
	合当・待受	合当はボンドを使わず、鋸で作成。 待受は、胴の穴を千枚通しで広げた後、穴の位置を合わせて貼り付ける。 合当・待受とも、黒紐で胴へ結びつける。	
袖・籠手班	片袖 袖付緒取付	緒の末端処理は木工用ボンドを使う。	セロハンテープ・木工用ボンド・ハサミ
	片袖 袖付緒取付		
	札板 2 段分威付		
	力糸縫延		
	片側)小ハトメ	12 個	ハトメパンチ小・針・糸・木工用ボンド
	片側)篠 4 本縫い留め	省略してもよいが、千鳥掛け以前に判断する。	
	片側) 肩札と肩 上付の 鑲	鋸とGPクリアを使用。	ド・千枚通し
	片側) 指緒	緒の末端処理は木工用ボンドを使う。	
	片側) 千鳥掛、手首の鑲		
脛当・佩楯班	片方のみ制作	黒紐を使って、紐 2 本を取り付ける。	木工用ボンド・千枚通し・ハサミ・金づち・板
	片方の篠の鋸	18 個、穴あけも必要。	木工用ボンド・千枚通し・ハサミ・金づち・板
	両方の力革・伏縫	G17 を使用。	
	猿座・猿座鑲の取付		

作業の様子  
兜をつくる



前胴をつくる



後胴をつくる



袖・籠手をつくる





佩楯をつくる



兜班



班ごとに完成したパーツを披露しました。



後胴班



前胴班

袖・籠手班





みんなで記念撮影

完成した甲冑  
名称は**鉾留桶側二枚胴具足**

## 「甲冑の歴史と変遷」！講座

### 1. 趣旨

甲冑に関する知識を深める講演会を開催することで、我が国の優れたモノづくり技術によって作り上げられている甲冑の構造を理解し、すぐれたモノづくり技術の伝統を知る機会とします。

### 2 取組姿勢

甲冑について広く知識を深められる内容とし、特に専門的な知識がなくてもわかりやすい内容としました。

例えば、①兜の前立ての形やデザイン、それに込められた意味について、②派手なデザインの甲冑は実際にはどのように使われていたのか、③実戦ではどのようなものが使われていたのか、④軽量化された実践向けの甲冑ものなどはあったのか、⑤その防御力はどのくらいかなどといった視点での解説としました。

### 3 実施概要

演題「日本の甲冑—歴史と変遷—」

講師：稲田 和彦 氏

(京都国立博物館名誉館員)

日時：平成 30 年 2 月 3 日 (土) 13:30～15:00

場所：三重県総合博物館 3 階 レクチャールーム

対象：小学生以上

聴講者数：45 人

### 4 アンケートの結果 (33 人回答)

1) このイベントについて

A 興味をひく話、印象に残った話がありましたか

	(人)	(%)
① いいえ	1	3.0
② はい	30	90.9
回答なし	2	6.1

②の回答内容

- ・時代によって必要とされる物が違うという点
- ・甲冑は説明は良かった
- ・甲冑の変せん
- ・具足の語意や役割
- ・革鎧の価値についてなど…
- ・甲冑の歴史
- ・胴丸等が平安期からあることを知らなかったの  
で驚きました。変わりかぶとが桐でつくられている  
ということも初めて知りました。
- ・甲冑、鎧兜の文字の用い方
- ・冑のかき方
- ・全体的に
- ・甲に不動明王を描くと
- ・小札と威毛の話、札の材料が鉄、革が 2 つある  
と知っておどろいた。
- ・文永・弘安の役による歴史の変遷
- ・甲冑の時代別歴史からの変化
- ・古墳時代から使われ進化していった所が…

- ・スライドで説明
- ・スライドでの解説が面白かった
- ・スライドが面白く、よくわかった
- ・材質、形状の変遷
- ・スライド

B 改善すべき点がありましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	13	39.4
② はい	14	42.4
回答なし	6	18.2

②の回答内容

- ・話だけではイメージしづらく、写真をみながら聞けるとよかった
- ・スライドと平行に講演を行なった方が内容よくわかるように思った。
- ・レーザーポインターを使用してほしい。マイクが声をひろわず、聞こえにくい。
- ・古いフィルムでなく、PC、パワーポイントの画像に
- ・事前の宣伝を県民に判る様に行う（マスコミの利用）
- ・プロジェクターが見つらい…
- ・あまりに時間オーバー
- ・時間配分
- ・前半部の説明の際に図があるとよりわかりやすくなると思います。
- ・説明といっしょにスライドがあれば良い
- ・時間がちょっと長い。専門的な話しなので、無知だったからつらかったです。
- ・スライド、動画を使用したわかりやすい説明。

C イベントに参加して、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	3	9.1
② はい	24	72.7
回答なし	6	18.2

②の回答内容

- ・同じような話を聞く機会はほとんどないので
- ・時代によっての変化を知れたので、今後よく調べたい
- ・講演内容そのもの
- ・色々な変わり兜をもっと知りたいと思った。
- ・甲冑の歴史や諸外国に比べ美的感覚のちがいを知った事
- ・甲冑の知識を得ることができた

- ・知らないことがいっぱいあって
- ・甲冑と刀剣の相互の変化を知れたこと
- ・少し専門家の意見を聞き、見方が変わった。
- ・知識の再確認
- ・甲冑の歴史がよくわかりました。
- ・大鎧の勉強

D このイベントに満足しましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	0	0.0
② どちらかという「いいえ」	1	3.0
③ どちらかという「はい」	14	42.4
④ はい	15	45.5
回答なし	3	9.1

E このイベントについてご感想・ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・もう少し知識が乏しくても楽しめるような工夫がほしかった。対象のわりには難しい内容、資料だった。スライドが始まってからは、とても分かりやすくなった。だけれど長すぎる。
- ・普段なかなか聞くことの出来ない、(戦闘形態の変化による)甲冑の形状、材質などの変遷をスライドを混ぜての貴重な講演、有難うございました。初心者にもよく理解出来ました。
- ・たのしみにしていました。とてもわかりやすく、甲冑の名所も大きくじっくりと企画展をみせて頂きたいと思います。スライドのお話しもわかりやすく、絵巻き物の場もあり、参考になりました。武将さんが場内におみえになり、とても良かったと思います。期間が3/18までなので残念です!!
- ・各時期の甲冑の知識を勉強しました
- ・間内で終わってほしい。文永・弘安の役後、胴丸・腹巻に変わっていったという話は、よかった。山城が作られる様になって、足のあがきを良くするために、胴丸・腹巻に変化していったと思っていた。資料とスライドを同時に使うともっとわかりやすい。
- ・甲冑の歴史について勉強をした事がなかったので、基礎から学ぶ事が出来てよかったです。これから博物館等へ行く際、気にとめて観ていきたいです。
- ・せっかくの講演会ですので、古い写りの悪いフィルムでなく、パワーポイントなどで見たかったですね。講演の先生→時間の配分を忘れていた。15:00 オーバー。
- ・暖房があつくて、かないません。

- ・いいイベントでした。
- ・展示室に学芸員を配置して、説明してほしい。

F 今後聞いてみたい講演、テーマなどがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・刀剣、武具
- ・刀剣、着物の変せん
- ・甲冑が与えた現代エンタテインメントへの影響など
- ・三重の城郭
- ・博物館に関することを知りたいです。
- ・甲冑の着付講演
- ・三重県の歴史（近世、中世あたり）
- ・日本古来の楽器～変せん・歴史
- ・日本の鎧について益々教えてほしい。
- ・「かたなの講演」「三重県の一揆」「三重県の大災」

## 2) あなたご自身について

### A 性別

	(人)	(%)
① 男性	24	72.7
② 女性	8	24.2
回答なし	1	3.0

### B 年齢

	(人)	(%)
～9歳	0	0.0
10代	0	0.0
20代	4	12.1
30代	3	9.1
40代	1	3.0
50代	7	21.2
60代	8	24.2
70代	9	27.3
80代以上	0	0.0
回答なし	1	3.0

### C 居住地

	(人)	(%)
① 津市内	16	48.5
② 三重県内	9	27.3
③ 三重県外	7	21.2
回答なし	1	3.0

#### ② 三重県内内訳

	(人)	(%)
四日市市	3	9.1

鈴鹿市	2	6.1
松阪市	2	6.1
菰野町	1	3.0
亀山市	1	3.0

#### ③ 三重県外内訳

	(人)	(%)
大阪府	3	9.1
愛知県	2	6.1
奈良県	1	3.0
兵庫県	1	3.0

D このイベントを何でお知りになりましたか。（複数回答あり）

	(人)	(%)
① ポスター	9	27.3
② チラシ	15	45.5
③ 新聞	1	3.0
④ テレビ	0	0.0
⑤ 雑誌	0	0.0
⑥ 「県政だより」	0	0.0
⑦ 館の公式ホームページ	3	9.1
⑧ そのほかのホームページ・ブログ	1	3.0
⑨ 館のTwitterやFacebook	1	3.0
⑩ そのほかのTwitterやFacebook	1	3.0
⑪ 直接、人から聞いて	9	27.3
⑫ その他	2	6.1
回答なし	2	6.1

#### ② チラシ 回答内容

- ・県立美術館に置いてあるチラシを見て

#### ⑫ その他 回答内容

- ・三重ドリームクラブの会員のすすめで
- ・手作り甲冑教室

E 三重県総合博物館 MieMu に来たのは、今回が何回目ですか。

	(人)	(%)
① はじめて	7	21.2
② 2回目	1	3.0
③ 3回目	3	9.1
④ 4回以上	20	60.6
回答なし	2	6.1



# 事業V 甲冑に親しむ着付体験

## 1. 趣 旨

子どもたち自身が、実際に甲冑を身に着け、写真撮影などを行う体験を通して、甲冑の構造を観察・学習することにより、日本の伝統工芸について興味関心を高める機会とします。

## 2 取組姿勢

一度に3人まで体験できるようにし、家族での参加を可能とすることで、家族の思い出につなげ、参加者の印象を深める催しとしました。写真撮影は、津城の石垣を背景とし、臨場感を高めました。

参加希望者が多く、最長で120分の待ち時間となることがあったが、事前に説明し理解を求めたうえで参加いただいたことで、苦情等はまったくありませんでした。

## 3 実施概要

日時:平成30年2月12日(月・祝)、3月10日(土)  
両日とも 13:00～16:00 (受付は 15:30 まで)

場所:三重県総合博物館 交流活動室

内容:参加対象を4・5歳から大人までとし、親子での体験を可能としました。一度に体験できるのは3人までとし、一回の所要時間は30分程度(着替え10分、写真撮影10分、返却に10分)としました。

甲冑の種類:紙とPPCで作成した軽量体験用の甲冑

準備物:畳敷きの着替えコーナー(3セット)

協力:特定非営利活動法人 三重ドリームクラブ(高虎手作り甲冑教室)

参加者数:2月12日145人

3月10日116人

## 4 アンケートの結果(19人回答)

### 1) このイベントについて

A 興味をひく話、印象に残った話がありましたか。/おもしろいことはありませんでしたか。

	(人)	(%)
① いいえ	2	10.5
② はい	16	84.2
回答なし	1	5.3

### ②の回答内容

- ・甲ちゅう着付体験 …2件
- ・かっこいい
- ・着付け体験 …2件
- ・甲冑が手作りと感じびっくりしました。色・形がきれいで感動しました。
- ・着たことがない甲冑にふれた
- ・甲冑がすばらしかった!
- ・甲冑
- ・かっちゅう体験
- ・甲冑が着れたこと

B 改善すべき点がありましたか。/直したほうがよいことはありましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	11	57.9
② はい	4	21.1
回答なし	4	21.1

### ②の回答内容

- ・大人の足軽もあつたらよかったかなあ…
- ・着せてもらう時に名前とか教えてもらうとなお良かったと思いました。
- ・もう少し、着てからのイベントが出来る時間がほしい

C イベントに参加して、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。/イベントに参加して、何か思いましたか。

	(人)	(%)
① いいえ	1	5.3
② はい	14	73.7
回答なし	4	21.1

### ②の回答内容

- ・子どもが嬉しそうだった
- ・命について考えた
- ・貴重でした
- ・日本の歴史について学ぶきっかけになりました。
- ・すごく良い体験でした。
- ・楽しい思い出が作れました
- ・甲冑づくりのお手伝いできたらいいなと思いました。
- ・昔のことがわかった
- ・おもしろかった
- ・たのしかった
- ・とっても貴重な体験ができたと思います。

- ・ふくそうがいがいとかるかった

D このイベントに満足しましたか。/このイベントはよかったですか。

	(人)	(%)
① いいえ	0	0.0
② どちらかというと「いいえ」	0	0.0
③ どちらかというと「はい」	1	5.3
④ はい	15	78.9
回答なし	3	15.8

E このイベントについてご感想・ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。/このイベントについて感想を書いてね。

- ・なかなか着れるものではないのでよかったです
- ・甲ちゅうを選んでみたかったですけど…おおむね満足でした。子どもたちは皆、かっこよかったです。

- ・着付けを見学させて頂き、うれしく思いました
- ・楽しかったです。また参加したいです！
- ・本当のかっちゅうはもっとおもいかなと思った。
- ・重かったけどうまくきつけてもらいました。
- ・貴重な体験ができ、とてもよかったと思いました。

- ・甲冑作りを伊勢の方でもぜひしてほしいです。また、こういうイベントも伊勢でお願いします。
- ・すごかったのしかったです。サムライにあこがれていたの着られてうれしかった。

- ・かっちゅうがかっこよかった
- ・藤堂の家もんがついた甲冑をきれて楽しかった
- ・かっちゅうをきれてたのしかった

F 今後聞いてみたい講演、テーマなどがありましたら、ご自由に記入してください。/今後参加してみたいイベントはありますか。

- ・科学的なもの
- ・かっちゅうをきておしぼいしたいです。
- ・歴史に関する体験イベントなど

2) あなたご自身について

A 性別

	(人)	(%)
① 男性	10	52.6
② 女性	5	26.3
回答なし	4	21.1

B 年齢

	(人)	(%)
～9歳	2	10.5
10代	5	26.3
20代	0	0.0
30代	1	5.3
40代	4	21.1
50代	3	15.8
60代	0	0.0
70代	0	0.0
80代以上	0	0.0
回答なし	4	21.1

C 居住地

	(人)	(%)
① 津市内	5	26.3
② 三重県内	10	52.6
③ 三重県外	0	0.0
回答なし	4	21.1

② 三重県内内訳

	(人)	(%)
大台町	3	15.8
伊勢市	2	10.5
度会町	2	10.5
桑名市	1	5.3
四日市市	1	5.3
伊賀市	1	5.3

D このイベントを何でお知りになりましたか。(複数回答あり)

	(人)	(%)
① ポスター	2	10.5
② チラシ	8	42.1
③ 新聞	1	5.3
④ テレビ	0	0.0
⑤ 雑誌	0	0.0
⑥ 「県政だより」	0	0.0
⑦ 館の公式ホームページ	2	10.5
⑧ そのほかのホームページ・ブログ	0	0.0
⑨ 館のTwitterやFacebook	0	0.0
⑩ そのほかのTwitterやFacebook	3	15.8
⑪ 直接、人から聞いて	1	5.3
⑫ その他	4	21.1

⑫その他 回答内容

- ・館に来たらやっていた

E 三重県総合博物館 MieMu に来たのは、今回が何回目ですか。

	(人)	(%)
大台町	3	15.8
① はじめて	4	21.1
② 2回目	3	15.8
③ 3回目	1	5.3

④ 4回以上	7	36.8
回答なし	4	21.1



着付体験に並ぶ参加者



着付の様子



着付の様子



記念撮影

## 今後の展開に向けて

本事業は、日本の伝統工芸技術の縮図ともいえる甲冑をテーマに、子どもたちへ、アクティブラーニング手法（課題探求型）による学習機会を提供したものです。この取組では、子どもたちが日本の伝統文化や伝統技術への理解を深めることを目標にしました。また、日本の文化や技術を世界へ積極的に発信していく人材の育成、さらには日本の伝統技術を次世代に伝える後継者育成への貢献を目指しました。

当初、事業は一年間を通したものとして計画していましたが、黒田委員から、小学6年生の歴史学習は2学期で終了するので、日本史をひとつとおりに学習した3学期頃に講座類を開催する方が、より学習効果が上がるのではという意見をいただいたことから、2月に開催した日本の甲冑・武器武具の世界～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～展にあわせて実施することにしました。

展覧会は、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 近畿支部・東海支部会員のみなさんのご協力により、ご所蔵資料約250点を展示することができました。三重県内でこれほど多くの甲冑を一堂で紹介する展覧会はこれまで開催されたことがなかったことから、展示観覧者のみなさんからは高い評価をいただくことができました。

会場となった三重県総合博物館では、博物館活動の核となる調査研究、収集保存、活用発信の3つの取組を、県民や利用者のみなさんとともに活動する「協創」、県内外で活動する様々な主体とともに博物館活動を展開する「連携」の2つの視点で進めています。今回の展覧会においても、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 近畿支部・東海支部会員のみなさんとの「連携」により開催した「交流展」でした。展示資料の選定・出陳・解説を同研究会が、展示・演出を館が担当しました。

38日間の開催期間で、入場者は11,625人、日平均306人と、2月から3月にかけての冬季の実施期間としては、多数の方に観覧いただくことができました。なかでも、若い女性の二人連れの来館者が多く、普段訪れる機会の少ない年代層に対してアプローチできたのではないかと考えています。

多種多様な甲冑・武器武具類を紹介するだけでなく、構造や構成している技術を部分ごとに分けて紹介するコーナーや、実物の甲冑を持ち上げたり、デザイン画を描くワークショップコーナーを設けたことで、じっくりと展示資料を見、観察することにつながったと思います。会期中に配布したデザイン画用シートは2,041枚と、観覧者の約20%の人が利用されました。甲冑が723点、兜が384点と1,000点を超える作品がエントリーされました。小さいサイズとはいえ、色鉛筆でち密に彩られた作品の数々は、長い時間をかけて描いていただいたものでした。滞在時間も通常よりずっと長く、親子で無言で描き続けるほほえましい姿も見られました。

一方で、甲冑や刀剣はなじみのない漢字や用語が多かったため、展示解説が難しかった等のご意見もいただきました。特に、小学校低学年の子どもには「武具」という言葉も難しく、入口部分でわからないことがあるという指摘もいただき、今後の展示活動に生かしていきたいと考えています。

子どもたちによる甲冑の作り方調査及び甲冑づくり講座は、当初2日間での実施を計画していましたが、複数日の参加が難しいこともあり、1日に凝縮して行いました。参加希望者が集まるか懸念されましたが、多くの子どもたちに参加していただくことができました。午前10時40分から午後3時までというロングランにもかかわらず、休憩時間もそこそこに、講師たちに質問したり、道具類を観察したりする姿が見られ、主催者としては大変うれしいものでした。特に甲冑づくり講座は、講師のち密な計画と準備、三重ドリームクラブのみなさんの親切な指導があったからこそ成功したのだと思います。

本事業によって、甲冑や武器武具をはじめとする日本の伝統的な工芸品や文化へ興味や関心を持つ子どもたちが少しでも育っていくことに寄与できればなによりうれしいことだと思います。

最後になりましたが、本事業の開催にあたり多大なご尽力・ご協力をいただきました、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 近畿支部・東海支部会員のみなさんをはじめ、関係諸機関、関係者のみなさんに心よりお礼申し上げます。

アクティブラーニング手法による  
伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業 成果報告

発行 伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会  
三重県総合博物館  
三重県津市一身田上津部田 3060  
TEL059-228-2283  
発行日 平成 30 年(2018 年)3 月

この報告書は平成 29 年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業) により作成したものです。

©The Agency for Cultural Affairs